

NEWS!

Vol. 41-1
No. 203
令和4年新春号

編集・発行
松浦機械製作所

謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年は、引き続き新型コロナウイルスの感染が世界中に蔓延し、感染力の高い変異株も発生して各地で感染者の増減を繰り返しながらその影響に振り回された一年でした。日本では、緊急事態宣言やまん延防止措置が何度も発動され、営業時間の短縮や外出も制限されたり、夏に開催された東京オリンピック・パラリンピックが無観客となったりと社会活動に影響を及ぼしました。一方でワクチン接種が2月から開始され、秋には2回接種者が人口の7割以上となり3回目の接種も年末から始まっております。そんな中、世界経済は、ウイズコロナでの経済活動が再開しリモートワーク・巣ごもり需要の高まりと自動車の電動化など地球環境問題への対応からカーボンニュートラルに向けた取り組みが各地で進展し、半導体不足や素材・原油価格の高騰が発生しつつも旺盛な需要が見られました。また米ドル為替相場は、米国経済と金融政策への期待からドルが堅調に推移し、ドル高円安基調の一年でした。その米国は、1月に民主党のバイデン新大統領が誕生、トランプ前大統領の自国優先から国際協調へ転換

する動きを見せつつ、中国との対立は依然緊張状態で推移しており予断を許せない状況です。日本は、9月に菅首相の退陣を受けて岸田新首相に交代し、10月の衆院選を連立与党が過半数を超えて政権を維持しました。今後の安定政権に期待するところであります。

日本工作機械工業会は、年初掲げた年間総受注額を1兆2,000億円から期の途中で1兆4,500億円に上方修正し、設備投資が活況に推移した一年でした。

そんな環境下でマツウラは、引き続きコロナ禍に合わせた企業活動を実施し、10月に久しぶりに国内外でリアル展示会の開催となったイタリア・ミラノのEMO 2021と名古屋のメカトロテックジャパン2021に出展しました。制限がある中で、最新5軸マシニングセンタによる自動化・無人化実現の実演プレゼンやハイブリッド金属3Dプリンタ活用事例を分かり易く展示し、好評を得ました。また同月に良好な操作性・高い加工能力・コストパフォーマンスを持ち、長時間無人運転・変種変量生産に対応するフロアパレットシステムを標準搭載した新機種5軸制御立形マシニングセンタ**MX-420 PC10**の販売を開始、**MX**シリーズのフロアパレットのラインナップを4機種に拡大し、更に市場からの幅広い要求に応えることが可能になりました。

新年を迎えるにあたり、2022年は電気・電子部品等の入手難が続き、その増産ニーズも根強く、半導体製造装置をはじめ各種産業機械の活発な設備投資は継続するものと見られます。一方、社会構造の変化に合わせた産業構造の変化も進んでおります。マツウラは、新世代の経営体制のもとこの変革の時代に対応し、お客様に選んでいただけるようこれからも尽力して参ります。

本年も格別のお引き立てを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松浦 勝俊

日本のへソ 福井 No.201



福井は日本のドマン中「日本のへソ福井」第201回目は「ふくみち」の話です。国土交通省において、道路法の一部を改正する法律（令和2年5月27日公布、11月25日施行）により、賑わいのある道路空間創出のための道路の指定制度として、歩行者利便増進道路制度＝通称：ほこみちが創設されました。福井市では、令和3年より福井版ほこみちとして「ふくみち」事業が始まりました。

令和3年10月2日から17日まで、ふくみちプロジェクトの社会実験が福井駅周辺の一部区間で行われました。いつもは歩く人がまばらで寂しさが漂う福井駅前の歩道です

が、期間中はおにぎりや井ものなどのキッチンカーが集まり、歩道の各所に温かみのある木製テーブルセットやハンモックが設置されて多くの人で賑わいました。その他にもリサイクルで集まった古本を並べた図書館やアコーディオン演奏などの音楽ライブが催され、老若男女問わず楽しめる空間がまちなかにできました。

この社会実験では、子供たちが遊ぶ姿や会社勤めの人たちが安らぐ光景など、歩行者空間で普段見られない様子がエリア内で見られました。同時に実験期間中の人の動きをデジタル技術で調査・解析もされており、今後のまちづくりに活かされていくようです。

現在、福井駅周辺の大規模な再開発や様々なイベントで福井のまちはどんどん進化をしています。北陸新幹線福井開業の際にはぜひ福井のまちにお立ち寄りください。

ユーザー を訪ねて

No. 188

タイコーテクニクス株式会社： 若手の自由な挑戦を自動化・

今回のユーザーを訪ねては、九州自動車道の北熊本スマートICから車で20分の距離にあるタイコーテクニクス株式会社です。同社は半導体製造装置向けを中心に、様々な金属部品を受託加工しています。取材には田上貴仁代表取締役社長にご対応頂きました。田上社長は高専で電気制御を学びながら、会社を手伝いつつ幼少からの夢であるグラフィックデザイナーを目指しました。高専卒業後は会社を離れ本格的にデザインの道を進みますが、会社の将来を案じてデザイナーを諦め、以降は同社の経営に携わります。「幼少期から絵画や音楽、映画など『表現する仕事』に憧れがあり、高専に進学した理由も『学校で使う当時高価だったPCがあれば独学でデザインを学べるのでは』と思ったからです」と冗談交じりに振り返る田上社長。同社の企業ロゴや名刺のデザインもご自身で手掛けたものです。



▲企業外観

バブル崩壊後の創業

同社は田上社長の父である現会長が平成3年1月に創業。以来、同社は金属加工一筋で事業を継続してきました。「創業当時は生産ライン向けなどの機械部品を加工していました。しかし当時はバブル崩壊に伴う景気低迷の真っ只中。創業からしばらくは新規顧客の獲得に苦戦したと聞いています。そんな中、縁あって現在もお付き合いのある大手半導体製造装置メーカーから引き合いがありました。とはいえ当社の技術レベルは決して高いとは言えず、容易に受注が獲得できる状況ではなかったようです」と創業当時を語る田上社長。

趣味のモノづくりに見出した活路

田上社長は平成20年頃から経営に携わるようになりますが、時を同じくして日本はリーマンショックに見舞われます。同社の受注も激減しましたが、このタイミングが同社の転換期となります。「会社経営に追われる中『不況もチャンスだ、時間が余るなら趣味の映画や音楽に没頭する時間がとれる』と考える様になりました。鑑賞用に安価なプロジェクトを購入し、それを天井に固定したい

と思いましたが、それには専用の金具が必要です。メーカー製の既製品もありましたが高価で手が出なかった。ならばいっそ自社で加工してみようと思い立ち、出来上がったものは予想以上の仕上がりとなりました。ふとした思いからそれらをネットオークションに出品したところ徐々に売れ始め、いつしかお客様からの依頼を受けて、ニッチなオーディオアクセサリを製造するようになりました。複雑なオーダーに応えるうちに、次第に金属加工のノウハウが蓄積され、当社の技術レベルも高まりました。メイン事業でも難易度の高い引き合いに対応できるようになり、業績も好転しました。楽しむことの中に成長の鍵があったのだと思います」と田上社長。



▲田上貴仁 代表取締役社長

5軸加工機を設備

田上社長が現職に就任した平成24年以降、同社はより付加価値の高いモノづくりを目指し5軸加工機を設備します。「以前は旋盤や立形マシニングセンタを使用していました。同様の設備を使用して、より低予算で加工できるライバルが多数存在しました。競争に勝つためには他社にできない5軸加工に着手する必要がある。もちろん社内からは高額な設備投資に難色を示す声も上がりました。しかしリスクを取らなければ当社のような中小企業に未来はない。そう決心して国内大手メーカーの5軸機の設備に踏み切りました。5軸機の恩恵は絶大でした。対応できる加工の幅が飛躍的に広がり、従来ならお断りしていた仕事も受けられるようになりました」と田上社長。以降、同社では大手メーカー製品を増設し、5軸機での受託加工を主力事業としていきます。

中小企業にこそふさわしいアプローチ

「いたずらに利益を追求するのではなく、若者にモノづくりのおもしろさを伝えられる会社にしたいと考えています。自由な発想でモノづくりに挑戦できる土壌をつくりたい。そう考えたとき、中小企業には致命的な弱みがあります。それは新人育成に費す時間とコストに制約がある点です。従来通りのビジネスモデルからの転換を図る

無人化で叶える

ため『自動化・無人化』は無視できないテーマです」そのような思いから田上社長は令和3年5月、同社にとって初のマツウラ製品となる、多面パレット搭載の5軸制御立形マシニングセンタ **MAM72-35V** を設備します。「設備したその月から **MAM72-35V** の恩恵を実感しました。例えばロボットアームを用いた大掛かりな自動化は、中小企業にとってコストとリスクの両面から現実的ではありません。**MAM72-35V** のような多面パレット機は確実に生産性を上げるという実績もあり、検討段階から生産効率がどの程度上がるかというビジョンが見通せる。**MAM72-35V** は中小企業にこそふさわしい自動化・無人化へのアプローチです」と田上社長は **MAM72-35V** を評価します。



▲令和3年5月に設備した **MAM72-35V**

『壊れない』という安心感

若手の活躍を願い自動化・無人化に取り組む田上社長。それだけに機械の扱いやすさについては並々ならぬ思いがあります。「当社の目指す自動化・無人化に **MAM72-35V** は最も相性の良い機械です。ただし操作性には改善の余地がある。例えば欧州製NCを搭載した他社の5軸機はオペレーターの使用感を最優先に設計されています。ツール管理やリスタート時の利便性など、様々な面で直感的に扱える点は、若手オペレーターにとって最も喜ばれることです」と田上社長。そんな中でマツウラを選んだ大きな理由は『壊れない』ことだったそうです。「正直、既にお付き合いのある他メーカーと比較するとマツウラの機械は高額です。しかし自動化・無人化に向け購入する最初の機械だからこそ『壊れない』という安心感を重視して選びました。ハードウェア面は他社と比べて素直に良いと思います。工場に伺った際にも丁寧に作り込まれていることが理解でき、非常に印象が良かった。他社と比べてトラブルも少なく、サポート体制に関しても優位性があると感じます」

タイコーテクニクス株式会社 概要

本 社 〒861-1114
 熊本県合志市竹迫355-3
 TEL 096-248-2081
 FAX 096-248-2082

代 表 者 代表取締役社長 田上 貴仁

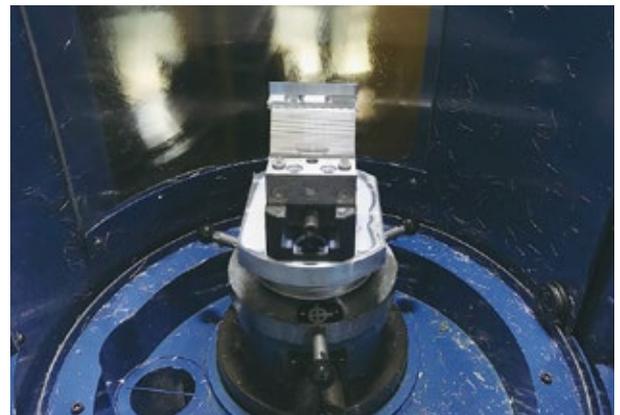
創 業 平成3年3月

従 業 員 34名

事業内容 マシニングセンタ・5軸加工機による金属機械加工

挑戦のための自動化・無人化

「若手が自由に挑戦でき、モノづくりのおもしろさを実感できる会社を作りたい。主力事業では徹底的に効率化を進め、安定した経営基盤を確保する。そこで生まれたリソースを活用して、若手が各々の趣味の分野、例えば自動車や釣りなどで使えるモノづくりに挑戦できる環境を整えたい。そこで重要なのは『挑戦に割く時間を如何に捻出するか』です。**MAM72-35V** の導入を皮切りに、今後も若手が挑戦できる環境づくりを目指した自動化・無人化に取り組んでいきます」と田上社長は同社の将来像を語ります。



▲設備機にて加工中のワーク

情熱をもって自動化・無人化を進める田上社長。システム面でも自身が陣頭に立ち効率化に取り組んでいます。本稿の取材の際、同社で活用している注文書の自動入力ソフトや、マシニングセンタのタッチセンサープログラムを自動生成するソフトを拝見しました。これらは田上社長がご自身でプログラムしたものです。「ルーティン化した作業の工数削減のために作りましたが、いずれも標準的な関数を用いた単純なプログラムです。既存技術の使い方を如何に工夫するかが効率化を図るうえで重要です」と田上社長。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取り、ご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも

公開中です。ぜひご覧ください。



MECT 2021

メカトロテックジャパン 2021
MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN

メカトロテックジャパン2021に出展

国内最大規模の工作機械関連の展示会「メカトロテックジャパン2021 (MECT2021)」が令和3年10月20日(水)～23日(土)の4日間、ポートメッセなごやで開催されました。

今回は「キカイを探そう」をテーマに426の企業や団体が出展。工作機械・切削工具・測定機器など、新製品から新技術まで最新のテクノロジーをアピールしました。

コロナ禍で数多くのイベントが中止・延期される中、リアルで実施される大規模な工作機械関連展示会として大きな期待が寄せられた今回。事前来場登録や滞留人数計測システムの導入など様々な感染対策が取られる中、4日間の総来場者数は68,929人を記録しました。

1号館のコンセプトゾーンでは「未来を変える新時代の自動化」をテーマに、人とロボットがそれぞれの得意分野を補い合える製造現場を見据えた最新のソリューションが展示され、昨今の製造業における自動化・無人化ニーズの高まりを伺い知ることができました。

出展機



5軸制御立形マシニングセンタ
MX-330 PC10

使いやすさと自動化機能を備えた5軸エントリーマシン



ハイブリッド金属3Dプリンタ
LUMEX Avance-25

レーザー焼結+高速切削の融合による新しいモノづくりを提案

LUMEX CAM

GIBBSCAM

hyperMILL

VERICUT

各種CAD/CAMソリューション

自動化・無人化デモンストレーション



▲各種SNSでも話題となった関東営業所長 五十嵐の“フリップ芸”

マツウラブースでは展示機MX-330 PC10の実演と、当社営業スタッフの自作フリップを用いたデモンストレーションを行いました。多くの来場者様にご注目いただいた内容を一部ご紹介します。

5軸多面パレット機を用いた自動化提案

複雑なワーク加工に用いられるイメージの強い5軸。多数個取りにおける5軸の優位性と、利便性の高いパレットシステムを実演形式でご紹介。マツウラ独自の自動化・無人化ソリューションをご提案します。

マツウラ×Blum-Novotest 工具長測定オプションのご紹介

ドイツの測定機器メーカーBlum社とのコラボにより実現。焦点レーザー式測定器の測定原理と小径ビームのメリットについて、Blum社のご担当者様を招きご案内しました。お客様が抱える工具測定に関するお悩みを解消します。

マツウラオンライン展示会 & After MECT



▲オンライン展示会場

特設サイトでは現地の様子をライブ配信 ▶



会期中にご来場できなかった方に向けてオンライン展示会をご用意いたしました。特設サイトではマツウラブースのライブ中継や、展示機に関する詳細情報、マツウラがDX推進の一環として取り組む各種動画コンテンツなどがご覧いただけました。



またオンライン展示会場はMECT2021終了後も引き続き公開されました。11月1日(月)～12日(金)の期間「AfterMECT」と題して当日の展示内容のご紹介や、ブースのライブ中継動画をアーカイブ配信しました。

BIG MAM 勇退

令和3年10月に**BIG MAM**こと4台の大型マシニングセンタの撤去が完了しました。この**BIG MAM**は昭和62年に自動化対応の設備として社内専用開発され、**MAM72 Series**開発のコンセプトにもなっています。**BIG MAM**は立形2台と横形2台が74面のパレットシステムに繋がっており、マシニングセンタのベッドやコラムなどの鋳物を5面加工していました。設備から30年以上が経過し、新たな設備への更新のため、撤去することとなりました。

この設備の設計プロジェクトを担当した山田陽一氏（当時：製造部生産技術所属）に開発時のことを振り返って頂きました。



▲インタビューに答える山田氏

開発のきっかけ

昭和61年にマツウラの21世紀への未来経営構想を描いた「MM21ビジョン」が掲げられました。その一環として、当社製のマシニングセンタを中心とした独自のFAシステムを構築しようとしたことがこの**BIG MAM**開発の発端でした。

現在の製品名にも取り入れられている**MAM**は**Matsaura Advanced Manufacturing**の略となります。

開発チームについて

MAMプロジェクトチームを発足し、事務局2名を含めて全13名で開発を進めていきました。私は、システムのうち立形マシニングセンタを担当していました。

開発時に最も苦労したできごと

切粉の処理に苦労しましたね。立形と横形では機内の切粉の散らばり方が違う為、いかにしてチップコンベアにのせて4台全ての切粉を回収するかはシステムの構想段階から頭を悩ませました。実際に稼働させてみると立ち上げ初期は切粉の詰まりが頻繁に起き、トライ&エラーで改良を繰り返し軌道にのせました。

稼働中のエピソード

BIG MAMにより、当時の5面加工機では対応しきれない大物・中物の鋳物を加工可能としました。また、4台のマシニングセンタをストックで繋げて加工している為、限られた人数で大量の加工数をこなせたのは**BIG MAM**のおかげだと思えます。

また、稼働初期の頃、私は会社に近い場所に住んでいましたので、トラブルが発生して夜間に修理に行くこともあり、機械の上でエアのホースが外れてくる



▲稼働中の**BIG MAM**

る回っているのを真夜中の薄暗い中、機械により登って修理したことも今では良い思い出ですね。

BIG MAM 勇退に対する想い

BIG MAMの撤去と私事です。自分の定年が同時期であったので、撤去された何もない跡地を見ると寂しさを感じました。しかし、いつまでも同じ設備、同じ人材のままでは会社は発展していきません。新しい設備と新しい人材に期待し、今後のマツウラが楽しみです。



BIG MAM 解体の様子を記録した動画を公開中

取締役 松浦 悠人

コラム



あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

早速ですが、「〇〇は手段であって目的ではない」に物申します。この意見自体を完全否定するわけではなく、見境なく言い続けたら進歩はないということです。やっかいな理由は正論であることです。正論であるがゆえに、まるでその時点で手段を語ることはタブーとする雰囲気

を作り出し、一步踏み込んだクリエイティブな意見が出ることを阻害します。結果、「まずは目的を明確にしよう」の掛け声で、「更なる生産性向上」のような「当たり前」の結論でまとまるわけです。何かをしている気にはさせるがどこにも前進させてはくれません。堂々巡りの間に、上層部の「何か新しいもの出せ」の一声で、それまでの崇高な議論はなかったかのように、手元のネタをかき集めて具現化します。結果、「我々は〇〇を目的と

し活動します。△△や◇◇が手段です。」の中身が少し変わったものが定期的に発表されますが、ふと思えばこの方針の中で何が実現されたのか。アウトプットが無ければ、「ああ、どう具体的に始めるか難しい。」を「格好つけて」言い続けていたことと同義でしかないです。

一方で、手段だろうが何だろうがまずそれに取り組んでみることは、完全な「悪」とは思えません。AI、IoT、ロボットは何かを実現するためのツールであることは確かですが、それらを駆使するスキルを高めることで、こういうことにも使えるのでは？と戦略の幅が広がる。全体的な目的や目標に落とし込める。私のせっかちな性格を正当化したいだけかもしれませんが、そう実感します。しかし、組織というのはバランスが重要です。私のような考えの人間だけになれば、それはそれで会社として問題でしょう。記憶力を確かに「格好つけた」言い訳に気づく、そして、確実な成果に導く。同時に、私は向こう見ずに様々なことに取り組む。これらを私の今年の抱負とさせていただきます。

海外ユーザーインタビュー

DX推進の一環として、マツウラグループではお客様の声を動画コンテンツにて積極的に作成しております。

本誌では、配信中の動画からピックアップしてご紹介いたします。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。

Ricourte Precision社 アメリカ MAM72-35Vのおかげでコロナ禍を乗り切ることができました



Ricourte Precision社は医療・航空業界向けの受託加工を行っている企業です。Hernan社長は日本で働いた経験があり、とても日本ツウな方です。当時からマツウラのことをよく聞いており、自社工場に**MAM72-35V**を導入する機会を待ちわびていました。

念願の**MAM72-35V**を2020年2月に納入し、本格稼働させようと思っていた矢先、コロナ禍が直撃しました。航空機業界を中心に市況が大きく悪化し「これはまずいことになった」と感じたと言います。

- 「コロナ禍に稼働開始しましたが、それ以来16ヵ月止まっておらず、主軸稼働率も75%以上を保っています。」
- 「公差が±5μmの難しい部品でさえ夜間に無人で加工しています。それは信頼性が高いからこそできる技です。」
- 「**MAM72-35V**の高い主軸稼働率・柔軟性・効率の高さを見て、『工場全体で改善を行う』という意識改革のきっかけにもなりました。」

同社と**MAM72-35V**は、仕事量が減るなかでも必要最小限の生産にうまく優先順位をつけることで短納期対応・高い主軸稼働率の維持に成功しました。

Middlesex Aerospace社 イギリス 一度購入したらまた購入したくなくなってしまうような機械です



Middlesex Aerospace社はその名の通り航空機業界向けの受託加工を行っています。エアバスで使われる部品のほかにも、ヘリコプターのランディングギア・ギアボックス部品も加工しています。

上記のRicourte Precision社と同じく、2020年3月に**MAM72-35V**を導入した直後にコロナ禍に見舞われ、過去1年半は苦しい期間が続いています。航空機需要の回復がまだはっきりと見通せないなか、同社の頼みの綱となっているのが**MAM72-35V**です。**MAM**による自動化を推し進めることで、手元に残るお金を少しでも増やそうとしたのです。

- 「工場内にはたくさんの種類の機械がありますが、**MAM**の生産管理が一番楽です。いつも素晴らしく安心して見ていられます。」
- 「このワークは元々旋盤で人の手で載せ替えながら加工していました。加工時間は旋盤の方が早いですが、**MAM**で無人運転する方がずっと効率的です。」
- 「加工精度、主軸稼働率、信頼性など、この機械から得られる結果はどれも素晴らしいです。同じモデルがもう少し大きいサイズのモデルをまた買いたいです。」

新体制のご紹介

営業本部



営業本部長 山岸 敏弘

明けましておめでとうございます。

営業本部の山岸です。ご存じの通り営業本部には二人の本部長がいますが、渡辺本部長は国内、私が全体と海外を担当しています。米国駐在帰任後から営業の仕事に携わり、もう少しで5年が経とうとしていますが、まだまだ未熟で勉強の日々を過ごしています。

私がエンジニアとして米国に初めて駐在した頃、とても驚かされたのは米国でのマツウラの評判がとてつもなく高かったことです。工場内に博物館のように並べられたマツウラの立形機を、勝手に私に自慢し始めるお客様、「昔からマツウラに憧れていて、やっと買った」と作業している私に話しかけ、作業中ずっとマツウラの性能の高さでビジネスが成功した話を延々と説明するお客様など、聞いている私がホント？と疑ってしまうような成功談をいくつも聞きました。正に“マツウラファン”だと思います。(英語では、「Loyal Customer」と表現します)

こんなお客様もいました。**MAM72-42V**を納入

する際、PC12を後付けするためのサポートで訪問したのですが、その工場には古い汎用旋盤と白黒ブラウン管NCの立形機が計10台並んでいるだけでした。いきなり5軸機？しかも多面パレット？大丈夫なの？と心配して聞いたところ、「何か問題が発生しても、お前みたいな日本人(メーカー)のサポートが受けられるから安心してチャレンジできる」と言われ、当時の私にとってはとても衝撃だったと同時に、少しユーザーにとってのマツウラを理解できたような気がしました。

皆さんも、ユーザーの満足度は性能だけでなく品質やサポートだということを知ったことがあると思います。私は営業として機械を売る役割を担っていますが、実際は機械の販売を通して、マツウラという会社自身をお客様に提案する仕事をしているのだと思っています。高い性能を目指した設計に加え、安定した調達、丁寧なモノづくり、真摯なサポート、これらすべてをマツウラの強みとして提案できるからこそ、今までそしてこれからも、お客様に選ばれ続けていけるのだと実感しています。

引き続き皆さんと一緒に、マツウラファンを増やしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

シングルorダブル

これからの展示会のあり方



社長 松浦 勝俊

昨年の10月、新型コロナ感染状況が割と落ち着いた中、久しぶりにイタリア・ミラノのEMO2021と名古屋のメカトロテックジャパン2021のリアル展示会に出展致しました。EMOショーについては、一番のネックとなる帰国後14日間の待機期間があったのもあり、かかる状況を総合的に判断して、マシンツール人生初めてEMOショーに参りませんでした。個人的にはコロナ禍で何か海外のショーが遠くに感じるようになりましたね。一方メカトロテックの方は、開催期間フルアテンド致しました。色々制限のある中で本当に2年ぶりのリアル展示会。開催前には、果たしてどうなるかと気をもんでおりましたが、蓋を開ければ想像以上に大勢の皆様のご来場があり、ブースは活気があって気持ちの良い展示会でした。実際にお目にかかって、お話をし、実演デモや実機を確認したりしてコミュニケーションを取る、そして相互に感触を確かめて次に事を進めて行く。こんな人と人の直接的な関わり合いが如何に重要か、オンラインでは中々得難いその有り難みを改め

て感じました。

ただコロナ禍以前から展示会に対する考え方、その存在価値も変わって来たように感じています。無論出展する側の費用対効果もありますし、DXやバーチャル技術の世界も日々発達し、訪れる側は、展示会に足を運ばずとも情報化社会ではネット経由でそれ相応の欲しい情報が得られる環境も出来ています。またウイズコロナでは、人が集まることに関して懸念は、これからも付きまとうものでしょう。リアルとバーチャルの世界、高額な設備投資を必要とする工作機械の展示会は、メーカーとして必要性に合わせてこれらを効果的に組み合わせるものを提供していくことになるのでしょうか。いずれにしろ、どちらも来場したいと思える魅力的なものが提供出来るかですね。

本年は、米国・シカゴでのIMTS2022、そして東京でのJIMTOF2022の2つの大きな展示会が4年ぶりにリアル開催されます。不肖ながら私、日本工作機械工業会の見本市委員会委員長を拝命し、初開催から60周年を迎えるJIMTOF2022を魅力あるビジネスショー、世界トップの技術ショーに仕上げるために尽力する所存です。

皆様、何卒ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

1 令和4年度 松浦機械製作所暦

1	2	3	4
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5	6	7	8
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9	10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

■は休日

2 令和4年度 マツウラスクール開催日程

開催予定月	日 程	スクール内容
1月	11日(火)～14日(金)	基礎コース
2月	8日(火)～10日(木)	5軸加工コース
3月	8日(火)～10日(木)	高速・高精度コース
4月	5日(火)～7日(木)	5軸加工コース
5月	10日(火)～13日(金)	マクロコース
6月	7日(火)～9日(木)	5軸加工コース
7月	12日(火)～15日(金)	基礎コース
8月	2日(火)～4日(木)	5軸加工コース
9月	6日(火)～8日(木)	高速・高精度コース
10月	4日(火)～6日(木)	5軸加工コース
11月	15日(火)～18日(金)	マクロコース
12月	6日(火)～8日(木)	5軸加工コース

※対面で実施予定ですが、今後の感染状況に応じてオンラインに変更となる可能性があります。

※お申し込みは各営業所までお願いします。

※日程や内容は予告なく変更となる場合がございます、お申し込みの際にご確認ください。

3 福岡出張所 開設のご案内

この度 営業拠点拡充のため、大阪営業所管轄 福岡出張所を下記の住所で開設致しました。これからも皆様方のご期待にお応えできますよう、さらに営業活動に専念して参ります。



〒810-0041
福岡県福岡市中央区大名2丁目9-35
トウセン天神ビル 3階 D号室

ご連絡は下記、大阪営業所へお願い致します。
TEL : 06-6338-0731
FAX : 06-6386-2832

営業開始日 2021年12月1日

4 福井ユナイテッドFC JFL昇格ならず

マツウラがユニフォームスポンサーを務める福井ユナイテッドFCはJFL昇格を目指し「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2021」に挑みました。しかし、1次ラウンドAグループ2位の結果に終わりJFL昇格とはなりません。本年も北信越フットボールリーグ1部での活動となりますので、引き続きご声援の程よろしく申し上げます。

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から11月度の受注状況が発表されました。11月度の工作機械受注額は1,454億円(前月比97%)と前月比3ヶ月ぶりに減少したものの、3ヶ月連続で1,400億円を超える高水準の受注が続いています。内需は498億円(前月比99%)と依然500億円に近い水準を維持しており、補助金の効果に加え、補助金以外においても回復が進んでおります。外需は956億円(前月比97%)と前

年同月比では13ヶ月連続で増加となりました。10月度欧州において域内全体の回復傾向に加えて、イタリアで開催された展示会EMO2021の効果も一部寄与し、イタリアとフランスにおいて国・地域別統計開始以来の最高額を記録するなど、EUを中心に好調でありました。11月度も好調を維持し、11月の外需としては2017年に次ぐ過去2番目の水準となりました。

* 5ページにて記載の通り、30年以上の間、マツウラの部品加工の中核を担って

きた4台の大型マシニングセンタ通称“BIG MAM”が令和3年10月に勇退(撤去)となりました。解体の様子をタイムラプス動画で記録したYouTubeのページには、“What an amazing shop. Hope to see it someday!”と感想が寄せられていますが、BIG MAMの実物をご覧頂くことはできません。BIG MAM跡地には年内に次世代スマートファクトリー化の一端を担う新たなシステムを設備する計画です。2022年も進化していくマツウラにご期待ください。